

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 14 日現在

機関番号：58001  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22520289  
 研究課題名（和文）歪められた沖縄像 — 『八月十五夜の茶屋』小説・演劇・映画の比較検証  
 研究課題名（英文）Distorted Images of Okinawa: A Comparative Study on the Novel, Play, and Movie Versions of *The Teahouse of The August Moon*  
 研究代表者  
 名嘉山 リサ (NAKAYAMA RISA)  
 沖縄工業高等専門学校・総合科学科・准教授  
 研究者番号：80455188

研究成果の概要（和文）：*The Teahouse of the August Moon*（『八月十五夜の茶屋』）の原作小説、戯曲、映画を相対的に研究、比較検証することで、アメリカ側がどのように戦後沖縄を描き、また各作品がアメリカ、日本、沖縄等でどのように受容されたかを探ることを目指した。各研究分担者がポストコロニアル論、ジェンダー論などを中心に複数の論文を執筆し、沖縄、日本、アメリカで研究発表を行った。また当時の演劇の音声や二次資料などを収集し、作品の受容についても光をあてることができた。

研究成果の概要（英文）：By comparing and analyzing the original novel, theater and movie versions of *The Teahouse of the August Moon*, this study aimed to illustrate how Americans depicted post-war Okinawa and how each version was received in the US, Japan, and Okinawa. Each member closely analyzed each work, utilizing postcolonial theories, gender issues, etc., and presented papers in Okinawa, mainland Japan, and the US. In addition, we collected the sound recording of the original Broadway play as well as many other secondary materials, and could examine the reception of each version.

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：アメリカ文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：ヴァーン・スナイダー、米軍占領、ジョン・パトリック、沖縄、芸者・ジュリ、民主化政策

### 1. 研究開始当初の背景

1956 年に封切られたハリウッド映画『八

月十五夜の茶屋』(*The Teahouse of the August Moon*) はマーロン・ブランドや京マチ子らが出演し、当時アメリカ国内では興行成績が第6位になるほど大ヒットを記録した。この映画の舞台は1946年の沖縄で、米駐留軍政府による沖縄占領をコミカルにそして軍隊批判を強烈に含む風刺コメディとして、日本国内でも年間第5位の興行成績を収めた。しかし、舞台となっている沖縄側の反応は、沖縄をバカにしているという理由からか不評で、上映期間も短かったという。その後、沖縄のアカデミック界は、いくつかの例外を除いて『八月十五夜の茶屋』というテキストを無視してきたといっても過言ではない。しかし、沖縄戦後50年以上を経てから、散発的に映画『八月十五夜の茶屋』の批評が書かれるようになり、21世紀に入るとこのテキストに関する論評がでてきた。例えば、本格的な研究論文には、新城郁夫(琉球大学)の「『八月十五夜の茶屋』論—米軍沖縄統治とクイア・ポリティクス」(『沖縄映画論』四方田犬彦・大嶺沙和編、2008年収録)やAlexandra Chung Suhの博士論文“*Movie in My Mind*”: *American Culture and Military Prostitution in Asia* (Columbia University, UMI, 2001)の一章があり、いずれもジェンダーの視点から本作品を扱っている。また、本研究の共同研究者、与那覇晶子は「『八月十五夜の茶屋』の原風景—ジュリと辻文化と沖縄のアイデンティティ」(2008年)で、これまで光があてられていなかった沖縄の辻文化の影響を論じた。同じく共同研究者の渡久山幸功は「米軍政府批判テキストの「汚染の言説」—ジョン・パトリックによる『八月十五夜の茶屋』翻案の意義」という論考を沖縄外国文学学会誌に発表し、研究代表者も九州アメリカ文学学会大会において小説と映画を比較した口頭発表の内容を発展させた論文を執筆中であった。

しかし、これまでの論考は、この作品を十分に研究・解明したとはいえず、先行研究を概観すると、『八月十五夜の茶屋』のテキストは、原作の小説、戯曲翻案、映画のいずれのジャンルも研究が充分ではないことは明白であった。特にヴァーン・スナイダー(Vern Snider)原作の小説*The Teahouse of the August Moon* (1951)に関する論文が、米国内外皆無という現状であり、本研究はこれまで研究されていない分野・テーマを中心に調査・検証していくことを目標として始められた。

## 2. 研究の目的

*The Teahouse of the August Moon* (『八月十五夜の茶屋』)の原作小説、戯曲、映画を相対的に研究、比較検証することで、アメリカ側がどのように戦後沖縄を描き、また各作品がアメリカ、日本、沖縄等でどのように受容されたかを探る。米軍統治下の沖縄を扱い、高い評価や人気を博した本作品群は、当時の政治的、文化的コンテキストを内包した貴重な歴史的資料でもあり、また現在でもあらゆる国で舞台化されつづけている特殊な作品でもある。小説の出版から半世紀以上が経った今日、徹底的に調査・再検証しその特異性や価値を分析する。

## 3. 研究の方法

国内の図書館や公文書館で小説、演劇、映画に関する資料収集を行った。また、研究代表者、研究分担者が、カリフォルニアのUCLA, UC Davis、スタンフォード大学、ニューヨークのコロンビア大学図書館、NY Public Libraryなどで映画、小説、戯曲関係の資料収集を行った。ヴァーン・スナイダーやジョン・パトリックに関する資料や、マーロン・ブランドなどの映画や演劇の出演者に

関する資料、当時の書評・劇評・映画評をはじめ、ブロードウェイでロングランを記録した当時の舞台の音源を入手することもできた。また、ニューヨークのテレビ関連のアーカイブにてテレビヴァージョンを視聴することもできた。(残念ながら著作権の関係上入手は出来なかった。) その後一次資料、二次資料を総合的に分析・検証し、それぞれが論考をまとめた。

#### 4. 研究成果

研究代表者、研究分担者それぞれの専門分野が映画、演劇、文学であるため、それぞれがそれぞれの専門分野に相当する作品について研究発表を行った。2年目(平成23年度)には成果を広く一般に還元するため、沖縄県立博物館・美術館にて上映会&シンポジウム「『八月十五夜の茶屋』の変遷—小説から演劇、映画の受容まで」を開催した。さらに、最終年度(平成24年度)はそれまでの研究成果を英語でまとめ、ポピュラーカルチャー学会(於米国ワシントンDC)でパネルを組んで研究発表を行った。

その他、分野横断的に本作品についてそれぞれが作品分析などを行い論文等を執筆した。渡久山は、演劇や映画における沖縄人通訳サキニを白人が演じたこと(イエローフェイス)について論考をまとめ、また、数少ない学術研究や書評、および原作者スナイダーのインタビューや新聞寄稿エッセイなどを参照して、原作小説が戦後間もない沖縄の統治機構である米軍に対する示唆的な教訓を投げかける稀有な作品として高く評価する論考を書き、沖縄大学地域研究所の機関誌に掲載した。

与那覇は、2006年に日本演劇学会全国大会で「『八月十五夜の茶屋』のパラダイムを越えて—沖縄から世界へ」のテーマで研究発

表して以来この間原風景としての作品の背景にこだわってきた。その中軸が琉球王府時代から沖縄に実在した遊郭とジュリと称された女性たちだと考え、終戦直後のジュリの表象をスナイダーがどう小説に再現したか、また芸者とジュリの比較を考察した。さらに1954年沖縄米軍基地内ズケラン劇場、また1955年の歌舞伎座での舞台公演についてブロードウェイ公演と比較しながら検証した。表象としての舞台の比較考察を受容も含め今後さらに深める予定だ。

名嘉山は、小説から映画への翻案について脱沖縄化という視点で小説と映画を比較した論考を執筆し、ポストコロニアル理論を採用した小説に関する論文も執筆した。また、人の移動や沖縄の子ども化という観点からの映画のテキスト分析を行った。研究期間に国内外で収集した映画に関する批評やその他の資料をもとに、アメリカ、日本、沖縄で上映された本作品の受容について論考をまとめ、収集した映画評の抄訳集を作成した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

(1) 渡久山幸功「ヴァーン・スナイダーの小説『八月十五夜の茶屋』—米国占領軍政府に見捨てられた警句・教訓—」『地域研究』(沖縄大学地域研究所紀要)第11号(2013)17-34(査読有)

(2) 名嘉山リサ「ティーハウス・デモクラシー—ヴァーン・スナイダーの *The Teahouse of the August Moon* における民主化—」*Southern Review* (沖縄外国文学学会誌) No.27 (2012) 141-158 (査読有)

(3) 与那覇晶子 「パンフレットに見るニューヨーク、沖縄、東京で上演された *The Teahouse of the August Moon*」 *Southern Review* (沖縄外国文学学会学会誌) No.26 (2011) 55-60 (査読無)

(4) 名嘉山リサ 「『八月十五夜の茶屋』—米・日・琉での上映と受容の比較—」 *Southern Review* (沖縄外国文学学会学会誌) No.26 (2011) 61-66 (査読無)

(5) 名嘉山リサ 「消された OKINAWA — *The Teahouse of the August Moon* 小説から映画への翻案過程における脱沖縄化」 沖縄工業高等専門学校紀要 第5号 (2011) 33-43 (査読有)

(6) 渡久山幸功 「沖縄人を演じるマーロン・ブランド—『八月十五夜の茶屋』のイェローフェイスの意味—」 *Southern Review* (沖縄外国文学学会学会誌) No.25 (2010) 69-74 (査読無)

[学会発表] (計 10 件)

(1) Tokuyama, Yukinori. “A Forgotten Story that Threatens American Military Imperialism: Vern Sneider’s *The Teahouse of the August Moon*.” Popular Culture Association/American Culture Association National Conference. Washington Marriott Wardman Park, March 29, 2013.

(2) Yonaha, Shoko. “Is Geisha Pan-Asian?: Cultural Discrepancy Seen in the Production of *The Teahouse of the August Moon* in New York, Okinawa, and Tokyo.” Popular Culture Association/American Culture Association

National Conference. Washington Marriott Wardman Park, March 29, 2013.

(3) Nakayama, Risa. “Infantilized Body of Okinawa and Okinawanness: The Movie Version of *The Teahouse of the August Moon*.” Popular Culture Association/American Culture Association National Conference. Washington Marriott Wardman Park, March 29, 2013.

(4) 与那覇晶子 「ニューヨーク、沖縄、東京で上演された *The Teahouse of the August Moon*—1950年代半ばに上演されこの作品は変わらない日米の位相を垂らすのか?」 日本演劇学会 (2012年6月16日、於近畿大学)

(5) 名嘉山リサ 「映画『八月十五夜の茶屋』における人の移動—異文化流入とオキナワ式復興— <人の移動と21世紀グローバル社会> 総括国際学会 (2012年5月20日、於琉球大学)

(6) 渡久山幸功 シンポジウム発表「小説『八月十五夜の茶屋』のテキストの危険性—軍事政府に見捨てられた警句・教訓—」 「『八月十五夜の茶屋』—米・日・琉での上映と受容の比較—」 上映会&シンポジウム 「『八月十五夜の茶屋』の変遷—小説から演劇、映画の受容まで」 (2010年9月10日、於沖縄県立博物館・美術館)

(7) 与那覇晶子 シンポジウム発表「ニューヨーク、沖縄、東京で上演された *The Teahouse of the August Moon*」 上映会&シンポジウム 「『八月十五夜の茶屋』の変遷—小説から演劇、映画の受容まで」 (2010年9月10日、於沖縄県立博物館・美術館)

(8) 名嘉山リサ シンポジウム発表『八月十五夜の茶屋』—米・日・琉での上映と受容の比較— 上映会&シンポジウム『八月十五夜の茶屋』の変遷—小説から演劇、映画の受容まで(2010年9月10日、於沖縄県立博物館・美術館)

(9) 名嘉山リサ 「デモクラティック・ティーハウス：『八月十五夜の茶屋』における米軍と沖縄住民による「民主化政策」九州アメリカ文学会第57回大会(2011年5月17日、於福岡大学)

(10) 名嘉山リサ 「映画『八月十五夜の茶屋』にみる子供化された沖縄」宇流麻学術研究助成基金シンポジウム「英文学研究ネットワークの再構築」(2011年1月29日、於沖縄キリスト教学院大学)

[図書] (計1件)

(1) 名嘉山リサ 「映画『八月十五夜の茶屋』における人の移動—異文化流入とオキナワ式復興」山里勝己、石原昌英、我部政明編『人の移動、融合、変容の人類史：沖縄の経験と21世紀への提言』採流社(2013) 337-352

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

名嘉山リサ (NAKAYAMA RISA)

沖縄工業高等専門学校、総合科学科、准教授

研究者番号：80455188

### (2) 研究分担者

与那覇晶子 (YONAHA SHOKO)

琉球大学非常勤講師

研究者番号：30412860

渡久山幸功 (TOKUYAMA YUKINORI)

琉球大学非常勤講師

研究者番号：20412869

### (3) 連携研究者

なし